

特集
2020を契機としたGAP農産物の
流通拡大に向けて



あいさつをする菅野孝志会長



試食を行う参加者たち



各JAのGAP認証農産物

J A全農福島は「ふくしまのGAP農産物 見て! 知って! 食べて!」と題して9月10日、現地研修会とセミナーを開催しました。
GAPとは農業において、食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組で「Good Agriculture l tural Practice (良い農業の実践)」の略であり、本セミナーは2020年東京五輪・パラリンピックにGAP農産物を提供することににより一層風評払拭を図り、GAPについて農業関係者や流通関係者が理解を深め、更なる普及につなげることを目的として企画をしました。参加者はJ A、生産者、県、市場・仲卸者、量販店、報道関係、福島大学食農学類の学生など約140人が参加しました。

午前中は現地研修会として、きゅうりで第三者認証を取得している伊達市梁川町の橋内唯夫さんの自宅と栽培圃場を視察しました。橋内唯夫さんからはGAP認証取得する際に取り組んだ経過や取り組みのポイント、またGAP認証のメリットとして「農薬や肥料の在庫管理を徹底し、無駄な出費が減った」など実態に即した説明をしていただき、参加者は徹底された農薬管理・整理整頓された肥料や農機具保管・交差汚染及び異物混入防止対策がされた農産物取扱

施設、張り紙で本人だけでなく他人にもGAPを実践していることが解るようにしている取り組みなどを確認しました。
その後、J Aふくしま未来東部広域共選場(伊達市保原町)ではGAPを取得したきゅうりの選別と出荷状況を見学しました。参加者はGAP品と通常品との混入を避ける取組みが必須であることや出荷ダンボールにはGAP品であることを示す押印がされていることを確認しました。
昼食会ではセミナー会場のホテルに県内各J Aで第三者認証を取得した農産物を一同に展示し、昼食にもGAP認証を取得した農産物(トマト・キュウリ・シイタケ・アスパラガス・米)を使用した料理をバイキング形式で参加者に提供しました。

午後のセミナーではJ A全農福島 猪股孝二県本部長、J Aグループ福島 菅野孝志会長があいさつしました。その後、J Aグループ福島のGAP取得状況について報告しました。県内J Aの8月末現在のGAP取得状況は16団体を含む57件で品目数は23品目、農場数は370農場を超えており、今後ますます拡大する予定ではあるものの、まだまだ認知度は低く、農林水産省がスーパードなどの実需者に対する意識・意向調査ではGAPの認知度は約50%と低調であることから、今後ますますの認知度向上にむけて取り組む必要があることを説明しました。



基調講演する戸井和久チーフオフィサー



パネラーのみなさん

知が高まりことで価値が向上していく」と話がありました。

パネルディスカッションでは、菅野孝志会長・戸井和久チーフオフィサー・視察農家の橋内唯夫氏・イオンリテール農産商品部長の千葉泰彦氏・福島大学食農学類准教授の高田大輔氏から「これからのGAP農産物について」の考えを発表しました。なかでも菅野孝志会長からは「これからはGAP認証農産物が当たり前になるように進めていく。作業工程を見直し、安全性を高めることが後継者育成につながる。より多くの消費者に福島はGAPの産地であることを発信していく。」などとコメントしていただきました。

今後とも、J A全農福島はさらなるGAP取得に向けて「人材育成」、「認知度向上」、「販売先の確保」を中心に取り組んでまいります。



圃場説明をする橋内唯夫氏



J Aふくしま未来東部広域共選場の様子

基調講演は「GAP農産物の流通について」と題して全農の戸井和久チーフオフィサー(元イトーヨーカ堂社長)が行い、GAPは産地の信頼性を証明する仕組みで、消費者の認